

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 47人

② 算数 47人

5 留意事項

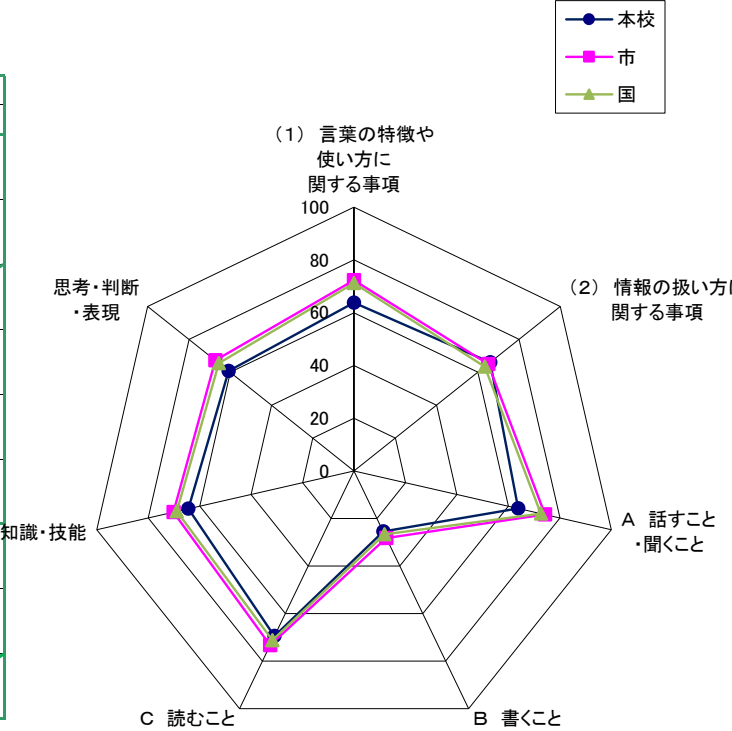
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	63.8	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に關する事項	66.0	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に關する事項			
	A 話すこと・聞くこと	63.8	74.2	72.6
	B 書くこと	25.5	28.2	26.7
	C 読むこと	69.5	73.3	71.2
観点	知識・技能	64.4	70.2	68.9
	思考・判断・表現	60.8	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

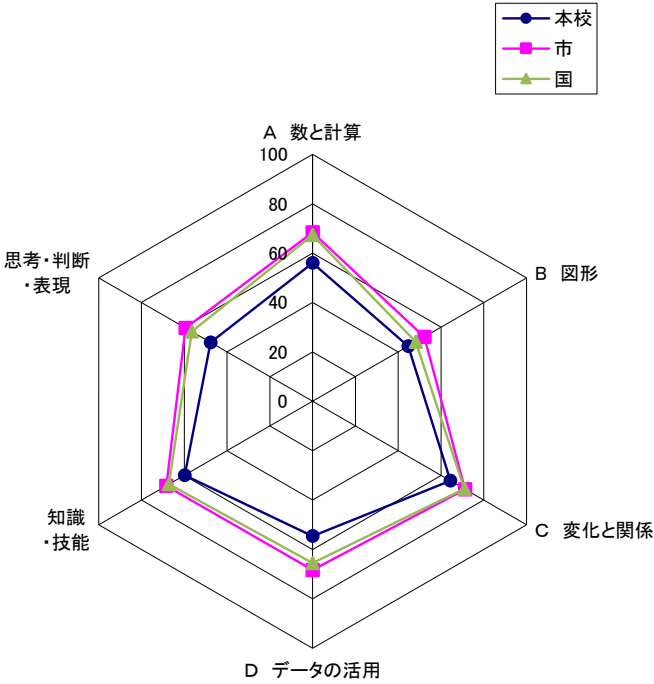
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に關する事項	●平均正答率は63.8%で、市の平均を8.5ポイント、国の平均を7.4ポイント下回った。 ●文章の中で正しい漢字を使用する問題において、課題が見られる。 ●適切な敬語を選択する問題では、平均正答率が、38.3%と市と国の平均をとともに15ポイント以上下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後とも、基本的な言葉の学習や漢字の練習を行い、確実に定着することができるようにしていく。また、児童の状況に応じて、基本的な学習だけでなく、より発展的な学習に取り組めるように、個に応じた指導の充実を図る。 ・主述や修飾の関係、敬語や慣用句など学んだことの習熟が図れるよう、授業や朝の学習で振り返る場面を意図的に作っていく。特に敬語に関しては、日常においても教師との会話の中で敬語でのやり取りができるようにしていく。
(2) 情報の扱い方に關する事項	○平均正答率は66%で、市の平均を1ポイント、国の平均を2.6ポイント上回った。 ○パンフレットを見て、どのように整理してるか正しく説明している文を選択する問題で、正答率が70.2%と市や国の平均を上回った。 ●情報を読み取って、原因と結果の関係を選択する問題で、市で4.1ポイント、国で3ポイントと下回った。	・それぞれの情報を見て、どのような関係なのか、どんな図表、語句が適切なのかを少しずつ読み取れるようになってきている。引き続き、授業などにおいて、情報の中から適切な図表や語句を読み取ったり使用したりできるように指導していきたい。
A 話すこと・聞くこと	●平均正答率は63.8%で、市の平均を10.4ポイント、国の平均を8.8ポイント下回った。 ●特にインタビューの様子を読んで、分かったことをまとめて書く問題で、市で14.7ポイント、国で12.8ポイントと大幅に下回った。	・朝の活動の1分間スピーチや、授業中に自分の意見や思いを発表する機会を多く設けるようにする。その際に、事前に自分の意見や思いを考え、ノート等を書いておくことで、苦手な子でも抵抗なく発表できるようにしていく。 ・引き続き、少人数での話し合いやクラス全体での意見交換などの場を意図的に設定して、目的に応じた話し合いができるように指導していきたい。
B 書くこと	●平均正答率は25.5%で、市の平均を2.7ポイント、国の平均を1.2ポイント下回った。 ●無解答率が14.9%と市や国よりも高い。	・各行事の後に振り返り作文を書くなど、書くことへの抵抗を減らし、慣れさせていく。 ・文章を書く際には、目的に応じて書く事柄を整理させたり、意見や理由を区別して書かせたりして、より効果的な文章が書けるように指導していきたい。
C 読むこと	●平均正答率は60.8%で、市の平均を3.8ポイント、国の平均を1.7ポイント下回った。 ○資料に書かれている内容として適切なものを選択する問題で、平均正答率が91.5%と、市で0.9ポイント、国で1.5ポイント上回った。 ●資料を読んで自分の考えをまとめる問題で、市では5.7ポイント、国では3ポイント下回った。	・資料から必要な情報を見つけて要約することができるよう、目的を意識して、中心となる語や文、図表などに着目できるように授業の工夫・改善を図っていく。 ・読書活動を推進して、読む力を高められるようにする。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	56.0	68.4	67.3
	B 図形	44.7	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	64.4	71.2	70.9
	D データの活用	54.6	68.3	65.5
観点	知識・技能	59.8	68.4	67.2
	思考・判断・表現	47.7	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●平均正答率は56.0%で、市を12.4ポイント、国を11.3ポイント下回った。 ●乗法と加法の混じった計算や、分配法則などを用いて計算する問題では、県を18.8ポイント、国を19.2ポイント下回っている。 ●わり算の筆算を図をもとに各段階の商の意味を考える問題では、県を10.7ポイント、国を9.3ポイント下回っている。	・基本的な計算をより定着させるために、補助教材を活用し、朝の学習や宿題等で計算力を高めていく。 ・四則の混じった計算や分配法則等、計算のきまりを理解していない児童が一定数みられるため、児童のつまずきに配慮した教材を工夫し、基礎的な知識の定着を図る。 ・わり算の筆算のしかたは理解できているが、適切な言葉を使い、順序立てて説明することを苦手とする児童の割合が多い。算数の知識をもとに発展的・応用的に考える活動の機会を増やしていく。
B 図形	●平均正答率は44.7%で、市を7.5ポイント、国を3.5ポイント下回った。 ○正方形の性質についての理解をみる問題では、県を4.6ポイント、国を4.3ポイント上回っている。 ●正方形の性質を利用し角度を求める問題では、正答率が10.6%で、県を12.4ポイント、国を14.3ポイント下回っている。	・公式や図形の性質を再確認させる教材を活用し、基礎的な知識の定着を図る。段階的に発展的な問題につながるよう、補充プリントを使用し、理解を深めるよう指導を継続していく。
C 変化と関係	●平均正答率は、64.4%で、市を6.8ポイント、国を6.5ポイント下回っている。 ○伴って変わる二つの数量の表から変化の特徴を読み取り、表の中の数値を求める問題では、県を5.5ポイント、国を4.4ポイント上回っている。 ●二つの数量が比例の関係にあることを用いて、数量の大きさの求め方を説明する問題では、県を21.6ポイント、国を23.6ポイント下回っている	・グラフや表から数値や項目間の関係を正確に読み取る問題では、基本的な内容は定着しつつあるので、変化の規則性を利用してより効率的に問題を解く活動に取り組ませる。また、発展的な内容にも取り組ませていくことで、さらに理解を深める。 ・記述問題の無解答の割合が高い傾向にある。教材を工夫しながら、題意に沿って自分の考えを順序立てて説明する活動を様々な場面で取り入れ、習熟を図っていく。
D データの活用	●平均正答率は54.6%で、市の平均をポイント13.7ポイント、国を10.9ポイント下回っている。 ●2つのグラフを見て、そこから読み取れる違いについて記述する問題では、県を15.4ポイント、国を13.6ポイント下回っている。無解答の割合が25.5%と高い。 ●表に示されたデータから、必要な数値を読み取る問題では、県・国ともに11.9ポイント下回っている。	・表やグラフから情報を正確に読み取ることができるよう、プリントやドリルなど補助教材やICTを活用し、習熟を図る。 ・グラフや図、説明文から読み取った情報を整理し、題意に沿って説明することが苦手な傾向がある。適切な説明の仕方が思いつかず、無解答となっている児童が一定数みられるため、苦手な児童にも取り組みやすい教材を工夫したり、文章での解答の仕方を繰り返し指導したりして、定着を図っていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」では、全員が肯定的回答をした。また「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」には87%の児童が肯定的回答をしていることから、いじめについての日頃の指導が根付いており、いじめは許されないことだと意識して生活していると考えられる。今後も継続していじめ防止啓発などの指導を徹底していきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答割合は91%で、さらに「友達関係に満足していますか」においては89%が肯定的回答をしている。学校生活の中で、全校・学年・学級で友達と協力して活動することで成功体験や達成感を得ることができている児童が多いからではないかと考えられる。

○「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」において肯定的回答割合は98%で県の平均を大きく上回っている。日頃の学習活動において効果的にICT機器を活用できていると考えられる。

●「将来の夢や目標を持っていますか」では、肯定的回答割合が72%で県の平均を11ポイント下回っている。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」でも肯定的回答割合が県の平均を下回っている。児童は人前で間違えることを非常に恐れており、常に周囲の目を気にしている様子が見られる。自分が間違えた時に、周囲がどんな反応を示すかを考えすぎて自分の思いを態度に表したり発言したりすることができない。同じく人を助けることに関しても、「助けたほうがいいのでは。」と思っても自分が一番に行動を起こしたら周りはどう思うかということが先にきてしまい行動に移す機会を失っている場合が多い。学校では、間違えることは決して恥じることではないと指導し続けているが、児童も頑ななため改善には時間を要する。今後も継続して声を掛けていくようにする。

●家庭学習についての質問の肯定的回答は県の平均と同等なものが多く、家庭学習の習慣化は概ね図られていることがうかがえる。しかし、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、1時間未満と答えた割合が県の平均よりも3ポイント高く、家庭学習の時間が少ない児童が見られる。休日に関しても同様のことがいえることから、家庭学習について、習慣化が図れているとはいえ、児童自身の学習に対する意識が低いいため、家庭と連携を取りながら指導していく。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」の質問では、「10分より少ない」「全くしない」と回答した児童の割合は52%と半数を超えており、県の回答率より13ポイント高かった。タブレットなどの普及により読書離れを感じるが、今後、児童の読書に対する関心を深められるよう、本校の特色の一つである読書活動(朝の読書や家読、読書リレー等)で、児童が読書できる時間の確保や家庭への啓発に努めたい。

宇都宮市立城山中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・互いに認め合い、主体的に学ぶ児童の育成	・「居がいい、やりがいい、学び合いを目指した算数指導」の校内研修の充実 ・一人一授業等による「分かる授業」の研究実践 ・『城央小スタンダード』に基づいた授業の展開の研究 ・望ましい学級集団作りと学級活動の充実 ・児童の実態把握と達成感の達成への支援	・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」では、肯定割合が89.6%、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている。」では、100%であった。 ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」では、83.3%の児童が取り組んでいる。
・基礎的基本的な学力の獲得	・AIDリルや朝の学習時間の充実による基礎・基本の学力の定着 ・算数について4年生以上の学年で習熟度別学習の実施 ・パソコンや辞書などの活用の充実 ・「書くこと」を意識した授業の展開の工夫 ・漢字・計算検定の実施 ・家庭学習の習慣化 ・「家庭学習強化週間」の年2回の実施 ・「ぐんぐん学習だより」発行による家庭との連携	・国語の「情報の扱いに関する事項」で市の平均より高いほかは、国語、算数ともに市より低い。 ・国語の「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数の「データの活用」、「数と計算」に課題が見られる。 ・家庭での学習時間については、50%の児童が「1時間以上（平日）」学習しており、学習習慣が身に付きつつあるが、「全くしない。30分以下（平日）」が10.4%いる。休日では「全くしない。30分以下（休日）」が52.1%であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎・基本の学力が十分ではない。	・今年度行っていることに加えて、前学年の復習を取り入れた朝の学習や宿題の充実を図る。	・児童の実態により、宿題においても、前の学年の復習を取り入れるなど工夫をする。